



核兵器廃絶国際デー・国連軍縮週間

代表理事先頭に訴え

“日本政府は国連で核兵器禁止せまれ！”



☆国連が提唱した「核兵器廃絶国際デー」（9月26日）、国連軍縮週間（10月24日～30日）にあたり、兵庫県原水協は神戸大丸前で街頭宣伝・署名行動をおこないました。兵庫労連の大型宣伝車から、筆頭代表理事の津川知久（兵庫労連議長）、代表理事の和田進（神戸大学名誉教授）、平和委員会の西澤慎代表理事、AALA 連帯委の井村弘子事務局長、芦屋市被爆者の会の千葉孝子会長、日本共産党の森本真神戸市議、林政人神戸市議などが、安倍内閣の戦争法強行と「核の傘」政策の推進の態度をきびしく批判し、開会中の国連総会で日本政府が「核兵器禁止条約」実現の先頭に立つように訴えました。両日とも土曜日の快晴の中で、核兵器禁止条約交渉を求める署名に次々に応じる通行人の姿が目立ちました。神奈川県からの観光客は、「横須賀に最新鋭の米原子力空母がやってきて、戦争の実感が増して気持ち悪い」と怒りながら署名しました。両日で63人から署名が寄せられました。

【写真上／廃絶デーの津川、和田、千葉（左から）。写真下／軍縮週間の津川、井村、森本（左から）】

兵庫県原水協60周年のつどい開く



◎兵庫県原水協は10月8日に創立60周年を迎えました。10日、兵庫県民会館で記念のつどいをおこない、県下各地、各団体から100人を越える出席があり、盛大に祝賀しました。津川・筆頭代表理事は、「兵庫県原水協の草の根の運動が世界を動かし、非核『神戸方式』誕生など大きな成果に貢献

献している」と述べ、核兵器廃絶と戦争法廃止のたたかひの決意を表明。日本原水協の安井正和事務局長、兵庫県被団協の岡邊好子会長、原爆症裁判弁護団の野口善國弁護士、港湾共闘の谷口利之議長、日本共産党の金田峰生参院予定候補などが祝辞を述べました。60周年にあたって姫路市原水協の高嶋敏彦さんや明石市原水協の坂本和枝さんなど地域原水協で永年にわたって貢献して来た方々を顕彰し感謝状と記念品を授与しました。大阪原水協の岩田幸雄理事長はじめ、但馬、丹波など地域代表、兵商連の磯谷吉夫会長や兵庫県民医連の東郷泰三事務局長など諸団体代表が次々と原水協の結成の苦労話、核兵器廃絶の決意などを語りました。

◎「つどい」は、姫路市からの圧力を跳ね返した民族歌舞団「花こま」の面おどりを楽しみました。代表理事の岸本友代さん（新婦人県本部会長）が、「60年の歴史を積み重ねた兵庫県原水協の新しい一歩にいっそうの協力を。ともに核兵器のない平和で公正な世界を築きましょう」と閉会のあいさつをおこないました。



兵庫県被団協が被爆70年慰霊祭

☆10月16日、兵庫県被団協主催の「原爆死没者慰霊祭」がおこなわれ、梶本事務局長が出席し、「追悼の辞」を述べました。梶本事務局長は、被爆者の努力で核兵器廃絶の流れが広がっていることを述べ、日本政府の核兵器容認政策、被爆者に冷たい政治の転換に全力をあげる決意を述べました。

【今、地域原水協のニュースなどが発行されています。垂水区、兵庫区、明石市、芦屋市、灘区など。地域・団体の活動内容をFAX・メールなどで知らせてください。どんな小さな行動でも結構です。】